

令和5年度 第1回障がい者が暮らしやすい地域づくり委員会について（概要）

[日 時] 令和5年8月3日（木） 13:00～15:00

[場 所] 江差町保健センター 集団指導室

議 題

【障がいのある方への意思決定支援について】

- 令和4年12月、管内の社会福祉法人が運営するグループホームにおいて、「知的障がいのある利用者カップルに対し、結婚や同居を希望する際に避妊処置を条件化されていた」という報道がなされたことに関する情報提供。
- 併せて、障がい者の意思決定支援についてのガイドライン等、行政における通知類の紹介を行った。今西コーディネーター及び松田委員（法テラス江差）からの相談支援、法的支援の際の意思決定支援について講話。

【地域課題「8050問題」について】～管内各町担当者を招いての意見交換等

- (1) **情報提供**…事前にコーディネーターより各町にアンケートを行い、8050問題に係る各町の状況を聞き取りした。(7町中7町回答)

アンケート結果（数値は各町合計）

- ①8050問題に該当するであろうと思われるケース数 …63件
- ②把握できているケースへの支援
 - ア. 関係機関と近隣住民も含めた見守り …19件
 - イ. 相談員＋行政（担当者・保健師・包括）の定期的な訪問 …33件
 - ウ. 親が介護サービスに繋がっている（申請中含） …12件
 - エ. 子どもが障がい福祉サービスに繋がっている（申請中含） …16件
 - オ. 関係機関の介入が困難 …3件

※介入困難な理由等

- ・自分たちが周囲から特別視されるのではないかという思いから介入拒否される
- ・「まだ自分たちで面倒を見る」として、親が介入を拒否する

③その他地域の課題等

- ・町内や本人が居住する地域の中での社会資源不足
- ・近隣の社会資源を利用していても、そこが何らかの理由で利用困難となった際、遠方のサービスに頼らざるを得ない等の場合がある
- ・成人後に障がい認定され、自宅に戻ったケースが地域で潜在化していると思われる

(2) **情報提供**…合わせて、等管内で R2～4 年度の 3 年間で、あった生活保護の申請（新規）のうち、8050 問題やそれに類すると思われるケースの紹介を行った。

(全 14 ケースを紹介。疑いも含め、知的 15 件 精神 6 件 発達その他 3 件)



委員及び各町からの意見

地域性を含めた課題背景と各町の取り組み

- ・現在各町で把握している件数が意外と多かった。
- ・各町とも 社会資源の不足が共通課題としてある。
- ・町によっては、支援が必要なケースをリスト化し、問題が生じる都度介入している。
- ・本人の命に関わるようなリスクがあれば別だが、それ以外では本人の意思を踏まえた支援を行うべき。本人への支援に必要な時期を見定め、必要な介入を行っていく。
- ・町によって、保健師や包括支援センター、民生委員協議会など、地域住民の状況を吸い上げる部署や関係機関が色々あるため、連携を取りながら地域の状況把握に努めている。
- ・行政が問題ありと認識していても、本人たち（主に親の方）がその認識が薄く、支援につながりづらいケースが多々ある。
- ・現在は見守り対応等で済んでいるケースでも、年齢を重ねることで今後生活上の問題が出てくると思われる。そうした時まで 関係者が途切れずに支援していくことが必要。
- ・周囲に支援を求めない。求めることができない…。といった地域性も影響しているのでは？
- ・介入するにせよしないせよ、「親の意識」が重要。親が年齢を重ね、「終活」を考える時に、家族の問題を行政や関係機関に 相談できるような意識を浸透させたい。
- ・函館市では、地域包括支援センターの中に「福祉拠点」を設け、すべての世代からの相談に対応している。